

2026年5月31日(日)

日本基督教団 大宮教会

大宮教会ビジョン

「すべての人を喜びあふれる神の家族へ」  
- 聖書の御言葉に生きる共同体を造り上げる -

(マタイによる福音書28:19-20)

# 聖霊降臨節第2主日

三位一体主日

朝第1礼拝 9:00~10:00

朝第2礼拝 10:30~11:45

<神の招き>

前奏 ①来ませ聖霊、主なる神 ブクステフーデ  
②来たれ、創造主なる神、聖霊よ パッヘルベル

招きの詞 使徒言行録2:1~4

交読詩編 97:1~12

讚美歌 351

<神の言葉>

聖書 イザヤ書63:7~10  
(旧約 聖書協会共同訳 1149頁)  
エフェソの信徒への手紙4:25~32  
(新約 聖書協会共同訳 349頁)

祈 禱

讚美歌 341

説教 「互いに赦し合う」 佐藤潤伝道師

祈 禱

黙 想

讚美歌 523

<神への応答>

使徒信条

献 金

主の祈り

宣教報告②

頌 栄 26

派遣と祝福

後 奏 ①来ませ聖霊、主なる神 アルムストルフ

②我がもとに來たれと、神の御子は語りたもう ヴァルター

宣教報告①

**今週の御言葉**  
互いに親切で憐れみ深い者となり、神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださったように、互いに赦し合いなさい。  
(エフェソの信徒への手紙4:32)

サテライトチャーチ植竹礼拝 10:30~11:30

夕 礼 拝 18:00~19:00

<神の招き>

前 奏 来ませ聖霊、主なる神 ツァッハウ

招きの詞 使徒言行録2:1~4

交読詩編 97:1~12

讚美歌 4

<神の言葉>

聖書 詩編23:1~6  
(旧約 聖書協会共同訳 1100頁)  
ヨハネによる福音書10:1~6  
(新約 聖書協会共同訳 180頁)

祈 禱

讚美歌 50

説教 「羊の囲いのたとえ」

熊江秀一牧師

祈 禱

黙 想

讚美歌 120

<神への応答>

使徒信条

献 金

主の祈り

宣教報告

頌 栄 24

派遣と祝福

後 奏 来ませ聖霊 ツァッハウ

ワーシップ(賛美礼拝) 14:00~15:00

説教「神の国と神の義を求めなさい」

熊江秀一牧師

マタイによる福音書6:31~34

賛美: 栄光から栄光へと、シャーイン・ジーザス・シャイン、花も、Still 静まって知れ、神の国と神の義、主の祈り、主の前にひざまずき、イエスが愛したように

## 次週の礼拝(6月7日) 聖餐式

① 9:00、② 10:30

説教「キリストの涙」

熊江秀一牧師

創世記14:17~20、

ヘブライ人への手紙5:1~10

交読詩編69:17~22

讚美歌6、51(I242)、291、78、24

夕 18:00

説教「恵みへの応答」

佐藤潤伝道師

出エジプト記20:1~6、

ルカによる福音書8:1~3

交読詩編69:17~22

讚美歌350、355、91、78、25

\*礼拝中、起立が無理な方は、着席のままどうぞ。\*は祈禱当番の方。\*①は朝第1礼拝、②は朝第2礼拝、夕は夕礼拝。

■今週の祈禱課題■ 独り祈る時、共に祈る時にお覚えください。

1. キリストの体なる教会が豊かに形成される為に
2. 東日本大震災と能登半島地震の被災者の為に
3. 父・子・聖霊なる三位一体の神の恵みに感謝して
4. 6月の宣教の為に
5. 長老会の為に
6. 関連幼稚園（大宮、植竹、白百合）の為に
7. イスラエルとパレスチナ、ウクライナ、イラン、世界の平和の為に
8. 病気の兄姉の為に

\*関東教区お祈りカレンダー 新津教会 五泉教会 燕教会

◇先週の説教より「霊による命」 ローマの信徒への手紙8章1～11節、詩編23編1～6節 熊江秀一牧師

ペンテコステにローマ書の最高峰である8章が与えられた。パウロは「今や、キリスト・イエスにある者は罪に定められることはありません」と喜びの叫びをあげ、罪と死からの解放を宣言する。

「キリストにある者」（新共同訳聖書「キリストに結ばれている者」）は「エン・クリストー」（直訳・キリストの中にある者）である。教会はこの言葉にキリストとの「合一」や「応答」を見てきた。

「肉により弱くなっていたために」不可能だった人間の救いを、キリストが十字架によって実現し、罪と死から解放して下さいました。「エン・クリストー」には一方的な神の恵みの御業がある。

そしてそのために大切なのは聖霊である。私たちは聖霊によってキリストにあり、結ばれた者とされる。

パウロは「肉の思い」と「霊の思い」の二つの生き方があると告げる。肉の思いは「自分と自分のものを求める心」（ルター）。それはむさぼりであり、その行きつくところは死である。

霊の思いは、神の律法に従うことである。それは「御名をあがめさせたえ」という祈りに集約される。その行きつくところは命と平和である。聖霊によってキリストにあり、結ばれた者となることに、私たちの命と平和がある。

そしてそれは死も乗り越える復活の希望である。死に打ち勝ったキリストがわが内におられる。だから死はもはや死ではない。この私が、聖霊によって、キリストの命につながるのである。

パウロは私たちに迫る。肉の思いと霊の思いのどちらを歩むのか。肉に思いに生きるのではなく、罪と死からあなたを解放したキリストの命の霊の法則に従って歩めと告げる。私たちは聖霊に導かれ、キリストにある者として、その恵みに応答して生きるように招かれている。この命の道を歩もう。